NIIGATA 市報にいがた

令和8年4月19日｜第1・3週 日曜発行｜
※掲載情報は４月９日時点のものです

2026
4/19
No.2861

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1～2 特集 新潟の春を彩るチューリップ

3
- 物価高騰対応支援金を給付
- 木造住宅の耐震改修費用などに補助
- 市職員を募集
- 4/29(祝) にいがたカナール彩

4
- 市長とすまいるトーク
- 光化学スモッグが発生
- 予防接種は計画的に

5
- 5/24(日) アプリでバス無料デー
- 5/5(祝) こども・子育て関連イベント
- 連載 未来への扉
- 5/5(祝) プール・アイスアリーナを無料開放

他3ページは区役所だより
「情報ひろば」は別冊で発行しています

今が見頃

新潟の春を彩るチューリップ

今号は、新潟市の花、
チューリップを紹介します。
問食と花の推進課
(☎025-226-1841)

生産者に聞きました

好きな品種
マリアージュ

JA新潟かがやき
切り花部会
チューリップ専門部長
荒井 勝利(しょうり)さん

チューリップは500種類以上!?

チューリップは春を代表する花の一つで、秋に球根を植えて春に見頃を迎えます。実は品種は500を超えるともいわれていて、赤や黄、ピンク以外にも緑や黒といった珍しい色の花を咲かせたり、フリルや王冠のような面白い形のチューリップもあるんです。自分好みのチューリップを見つけて楽しんでみてください。

新潟市はチューリップの商業生産“発祥の地”

新潟市のチューリップの歴史は、大正８年に中蒲原郡小合村(現 秋葉区)で花卉(かき)農家の小田喜平太(きへいた)が、チューリップ栽培が盛んなオランダから球根を輸入し、栽培したのが始まりといわれています。新潟市は日本のチューリップ球根商業生産“発祥の地”とされています。

切り花の産出額全国１位!

新潟県はチューリップの切り花の産出額が年間約**９億円**で、全国で１位を誇ります。(出荷量は929万本※)

中でも新潟市は県の出荷量の約７割を占めるなど栽培が非常に盛んな地域で、チューリップは「新潟市の花(市花)」にも指定されています。

※令和6年産のJA全農にいがた取り扱い実績

栽培が盛んなのは米どころだから?

新潟がチューリップの生産が盛んな理由には、気候が栽培に適しているのもありますが、新潟が米どころであることも関係があると思います。チューリップ農家はコメなどの農作物も生産している人が多いのですが、チューリップはコメの収穫後の10月頃から栽培を始め、春先には出荷を終えるので、コメの生産がない時期にできる仕事として、とても相性が良いです。こういったこともチューリップ栽培が盛んな理由かもしれません。

にいがた ニキロ 新潟都心のまちづくり
SDGs未来都市 新潟市
国際湿地都市 NIIGATA

市の各種手続き、催し案内などは
土・日曜、祝日も新潟市役所コールセンター 年中無休 8:00～21:00
こたえてコール(にいがたしみんのしやくしょ) 025-243-4894
FAX 025-244-4894 Eメール 4894call@call.city.niigata.jp

編集・発行／新潟市広報課
〒951-8550
新潟市中央区学校町通
１番町602-1
☎025-226-2089

新潟市の人口・世帯数
（３月末住民基本台帳人口。かっこ内は前月との比較）
人　口／751,383人(-2,376)
男 361,514人(-1,313)　女 389,869人(-1,063)
世帯数／352,865(252)